

高等学校

教科【公民】

単元【公共：青年期の課題と自己の在り方生き方】

主体的・対話的で  
深い学びのポイント

生徒の自己意識と高校生に関する意識調査結果との比較、分析をもとに、他者と協議し、青年期の課題について理解を深め、自己の在り方生き方について考察する。

ICT活用のポイント

クラウドを活用して生徒の自己意識を把握させた上で、タブレット等を活用し「高校生に関する意識調査結果」と自己意識を比較、分析させる。

使用する  
ICT機器

PC、タブレット等

使用するアプリ・  
クラウドサービス等G Suite (Classroom、フォーム)  
Webシミュレーションクラウド  
の活用教材の配布・回収等  
生徒の学習状況の把握資料等の共有  
その他 ( )本時の  
ねらい

自己の意識と「高校生に関する意識の調査」の結果との比較、分析を通して、青年期の課題について理解を深め、自己の在り方生き方について考察する。

主な学習活動  
(学習場面)

ICTの活用・留意点等

評価

導入

○本時の問いを  
確認し、アン  
ケートに回答  
する。 **一斉**◆本時の問い  
「青年期の課題と  
はどのようなもの  
だろうか。」

フォームで作成したアンケートに回答する  
(自動集計結果を教師が確認)。 **指針3**

<質問項目>

- ・私は人並みの能力がある **クラウド**
- ・自分の希望はいつか叶うと思う
- ・自分はダメな人間だと思ふことがある

※「とてもそう思う」、「まあそう思う」、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」の4段階の尺度で回答。

ICT機器



展開

○クラス全体の  
傾向を考察す  
る。 **協働**○国際調査の結果から日本の  
高校生の特徴  
を分析し課題  
を考察する。  
**個別**○考察した結果  
について、グ  
ループで話し  
合う。 **協働**

プロジェクター等を活用して投影しながら、  
アンケートの集計結果を全体で共有する。

クラスの全体的な傾向について、ペアで考  
察し、ワークシートに記入する。 **指針3**

※生徒が端末から入力する方法も可。

「高校生の生活と意識に関する調査報告書」  
から、日本・米国・中国・韓国を比較し、  
日本の高校生の傾向について分析し、ワー  
クシートに記入する。 **指針2**

※[調査研究報告書検索 \(niye.go.jp\)](http://niye.go.jp)

ICT機器



ICT機器



終末

○本時のまとめ

これまで学習した「青年期の課題」を踏ま  
え、自己の望ましい在り方生き方について  
ワークシートに記入する。 **指針2**

※生徒が端末から入力し、クラウ  
ドで回収・評価する方法も可。 **クラウド**

ここで評価

【思】青年期の課  
題を周囲の人々  
との関わりで捉え、  
望ましい自己実現  
に必要な取組を考  
察し表現している。

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】=知識・技能 【思】=思考・判断・表現 【態】=主体的に学習に取り組む態度